

令和五年度

麗澤瑞浪に学んで



麗澤瑞浪中学・高等学校
Reitaku Mizunami Junior and Senior High School

発行にあたって

校長 藤田 知則

この「麗澤瑞浪に学んで」は、六月に行っている「伝統の日・感謝の集い」での発表原稿、生徒寮で開かれる体験発表会での発表原稿、高校三年生卒業時の「麗澤瑞浪に学んで」など、本校の活動の中で綴られたものを纏めたものです。今年度は、新型コロナウイルス感染症の法令上の位置づけが変わり、ようやくコロナ禍前の学校教育活動が展開できるようになりました。行事を通じて学びを得て成長する生徒の姿を見て、大変嬉しく感じしております。本校は、昭和三十五年に、全寮制の学校としてスタートしました。多様な人間関係の中で学び、時に葛藤することは人間の成長に必要不可欠です。困難とも言えるこの時期に、国家、社会の発展と人々の安心、平和、幸福の実現に寄与できる人物を育成する本校の教育の一端を感じとっていただけたら幸いです。

第一部 伝統の日 感謝の集い



ありがとうの魔法

3年 湯浅梨乃

私は人に対してすぐに「ごめん」と言ってしまう癖があります。ある時友達と話している、いつものように「迷惑かけてごめん」と言ったら、友達から「何で『ごめん』なの？」と不思議そうに聞かれました。私は戸惑ってしまい、また「ごめん」と言ってしまうしました。私にとって「ごめん」は日常の会話の中ですぐに出てきてしまう言葉の一つです。私にとっての「ごめん」という言葉のように、

私たちの周りには「失礼しました。」「おつかれさまでした。」など、普段使い慣れた言葉がたくさんあります。「ありがとうごさいました。」という言葉もその一つだと思います。

数ある言葉の中でも私は、「ありがとう」は日本語で一番素敵な言葉だと思っています。この「ありがとう」には言う側も言われる側も笑顔にする不思議な力があります。これを私は「ありがとうの魔法」と呼んでいます。この魔法は人間が使える一番簡単な魔法です。しかし私は、「ありがとう」という言葉を聞く時、違和感を覚えることもあります。これは友達が無意識に感じた「ごめん」も同じ理由だと気づきました。それは、言葉に気持ちがかもっていないと感じるということです。なぜなら、それを義務のように流れで行ってしまうからではないでしょうか。

感謝の場合では、自動販売機から聞こえてくる「ありがとう」、電車に乗っているときのアナウンスの「ありがとう」、これらは機械的に作られた自動音声なので、当然気持ちはこもっていません。しかし、それだけではありません。先輩と後輩の間で使われている「あ

りがとう」の言葉も、流れて惰性的に言っているだけで、気持ちがいけないときもあるのではないでしょうか。「お礼さえすればいいんですよ」の気持ちが「ありがとうの魔法」の力を弱めていると感じます。さらに弱くなったもう一つの原因だと思うのはスマホの普及です。今は、私たちより年齢の低い小学生でもスマホを利用して多くの情報と接

することができず、直接人と触れ合う機会は減ってしまいます。感謝の気持ちも相手の顔を見て、声に出して伝えるのではなく、ラインのスタンプなどで伝えるようになってきているのではないのでしょうか。普段あいさつも交わしていない人から送られる感謝のスタンプ、これには「ありがとうの魔法」の力が働いていません。この話をしていて私自身も感謝や謝罪を伝えるときなど義務のように行ってしまっているところがあります。確かにに形から入ることも大切です。特に寮に入ったばかりの頃は口がなれるまで様々な挨拶を意識的に繰り返す必要があります。確かにしっかりと礼儀の形を作ることができます。ですが、想

を乗せるということをお忘れすると最初の話のように「ごめん」や「ありがとう」に違和感を覚えられてしまうのではないのでしょうか。廣池千九郎先生も仰っているように良いことを良い心遣いで行うことは非常に難しいのだと思います。そしてまた、たとえできなくても意識することが大切なのです。

「ありがとう」のように、長く続けられてきた伝統には元々正しい想いと行動があったはずですが、また、言語そのものは伝えられても、そこに想いが残されていなかったり、形が変わってしまったということもあると思います。私達は伝承者として、そこに込められている想いを理解していく必要があるのではないのでしょうか。グローバル化がすすんでいると言われて今この時代にこそ形に想いを乗せるということは大切になっていくと思います。つまり「ありがとうの魔法」を受け継いでいくためには、受け継がれてきた伝統に自分の気持ちに乗せることが大切なのです。また、これまでの形や本来の想いを再現しようとするのではなく、自分自信の想いを自分だけの言葉で表現する力も大切にするべきだと感じ

ました。私たちは宇宙自然の働きによってつながっています。伝統に気持ちを乗せることは、その働きにつながっていくことです。

これまで多くの人に使われ、言う側も言われる側も笑顔にしてきた「ありがとう」。この言葉を長く受け継いできた人たちの気持ちに心に乗せること、それによって「ありがとうの魔法」の力がもともとと大きくならないで

麗澤の教えをつなぐ

4年 浦次真悠

今年の3月1日、私は麗澤瑞浪中学校の卒業式の日を迎えました。

いつもクラスで騒いで笑い合っている仲間たちが、緊張してよそよそしい感じを見て、まるで入学式の時みたいだな、と思いました。ですが、私は入学式がどのように行われたのか知りません。私が小学校を卒業するころに拡大していった新型コロナウイルスの感染対策のため、入学式の参加は任意とされた

ので関東地方に住む私は参加を見送ったからです。

やがて始まったオンライン授業で初めて先生方や友達、同じ寮の人たちと顔を合わせました。6月からは学校が始まりましたが、制服ではなくジャージで登校し、食堂では会話できず黙って食べて、寮へ帰っても自分の部屋以外は入室禁止。外出もできず、自室で時間を費やす生活でした。年上の周囲の人たちは「かわいいそうに」とよく口にしていましたが、そもそも本来の麗澤での生活を知らない私は、何が「かわいいそう」なのかよく分かっていませんでした。

しかし、だんだんとその生活の苦しさを感ずるようになっていきました。「このままでは、思い描いていたような中学生活が送れず、ただただ時間が過ぎていくだけではないのか。修学旅行には行けるのだろうか」。あきらめかけながら1年生を過ごしていた気がしますが、そんな私の予想はいい意味で裏切られました。2年生になると麗明祭が開催され、食堂内での会話が許可され、学年行事としては、制限下ではありましたが滋賀県へ行

くことができました。3年生ではほぼすべての学校行事が開催されました。修学旅行のUSJ、最初で最後の合唱コンクールや百人一首カルタ大会。入学したときの私は、まさかこんな幸せな中学生活になるなんて、まったく予想していませんでした。

卒業式中にそんなことを思い出していたら、校長先生のお話が始まるうとしていて、慌てて姿勢を正しました。校長先生はそのとき、今日までの3年間のことについてお話しされました。

コロナ禍であったこの3年間で、生徒たちに最大限楽しんでもらえるように生徒会の先輩方や先生方、保護者会の皆様が陰で必死に考えてくださったことを知りました。芸術鑑賞会や中高合同園内鬼ごっこを開いてくださった生徒会の皆さん、学年行事や学校行事を再開してくださった先生方、陸上競技会での差し入れやサプライズ花火をしてくださった保護者会の方々。他の部分でもきつと、私たちの知らないところで私たちのことを支えてくださったいる人たちがいるのだろうか、と気づかされました。

校長先生は、この話を終えた後、保護者、そして先生方にお礼をされました。私はその校長先生の謙虚な姿勢に驚きました。もし私だったら、麗澤瑞浪ではない校長先生だったら、少しは自己アピールをされたらという気がします。

そう思ったのには理由があります。それは、校長先生の低くて優しい姿勢が、この学校の校章である方両と似ているなど感じたからです。方両は赤くて美しい実を、花の下に付けています。そのさまを、廣池千九郎先生は、謙虚な心の姿に見なして愛されたと聞いています。だから校章のデザインになっていると習いました。校長先生は麗澤の教えをつないでいらつしやいます。

私は感謝する気持ちを大切にしています。朝起きて寮を出るまでに、仕事を手伝ってくれた後輩に「ありがとう」。朝食を食べ終わるのが遅い私を待ってくれる友達に「ありがとう」。食堂の職員さんにも、数学や社会など、教科書を作ってくださいました目に見えない人にも、教えてくださる先生方にも「ありがとう」です。

これらはこれからも継続していこうと思っ
ていますが、校長先生の、広く深い道徳に触
れて、私ももともと品性の向上に努めて
いかないといけないな、と感じました。

その卒業式が終わり2か月がたち、高校生
活を送っています。始めは出会ったばかりの
新しい仲間たちとどう接すればいいのか、不
安も少しありました。今もクラスが違つて話
したことのない同級生がいます。

しかし、校長先生が卒業式の際に見せてく
ださったあの低く優しい姿勢を「麗澤の教え」
として、私も教えをつなぐ一人として、廣池
千九郎先生の学園へ学びに来た新しい友達に
接していこうと思います。

ご清聴、ありがとうございます。



第二部 生徒体験発表会

【男子寮】

成長

A4寮 6年 森 巧仁

「成長」というテーマを聞いたとき、最初
に思いついたのは「立場が人を成長させる」
という言葉でした。今年、私はA4寮寮長に

任命され、一年間務めさせていただきました。
任命されたばかりの頃は寮をまとめないと、
引つ張らないと、という思いが先行し、焦っ

ていました。そこから数ヶ月、私たちが最高
学年として寮生活をし、そこで大きく気づい
たのは、今までの寮役員とは違う、自分なり
のやり方でいいのだ、ということです。私は
人の上に立つて引つ張っていくのは向いてい
ません。なので、自分なりのやり方を考えた
時、皆と同じ目線で皆で寮を作ることを目指
しました。そこで、寮役員という肩書は別に
偉い訳ではなく、責任を負うだけなのだ、と
寮役員任命式に高橋教頭先生がおっしゃって

いたのを思い出しました。この寮長という立
場を経験させて頂き精神的に大きく成長でき
たと思い、始めに言った通り「立場」のおかげ
で成長させてもらいました。

もう一つ気づいたことは、仲間の存在です。
私の目指す寮を作るとき、仲間の助けは必要
不可欠でした。ここで言う仲間はA4寮生全
員です。あまり言う機会は無いのでこの場を
借りて普段は言えないことをたくさん言いま
す。

まず、四年生。少しお願いしたらすぐに動
いてくれて、ゴミ出しや旗など率先してやっ
てくれてありがとう。

五年生。一学年下ということもあり、とて
も仲良くなれて本当に寮生活できて最
高でした。五年生には感謝しかありません。寮
の仕事で気づいたら真っ先に動いてくれる子
落ち込んでいたら気づいて声掛けてくれる子
急に抱きついてきたり、一発芸して笑わせて
くれたり、楽しかった思い出も寮を支えてく
れた面でもありがとう。

六年生。個人個人言いたいことはあるけど、
夜が更けちゃいそうなので簡単に言います。

三年間、六年間いっぱいありがとう。そして、A4寮の仲間。こんな不甲斐ない寮長について来てくれて、ありがとう。おかげで私は成長できました。

最初のスピーチで、私がこんな寮にしたいなって言っていたのを覚えていますか。それは、「最後にA4寮でよかったと思える寮生活」です。このメンバーで過ごす寮生活も残り数ヶ月です。最後に皆がこんな気持ちになれるように、皆でA4寮を作り上げていきたいと思えます。

A4寮で寮長をさせてもらったこと、また、皆のおかげで成長できたこと、ありがとう。



後輩を引く張る存在になるために

テニス部寮 5年 塩崎 一護

私が一年間寮生活を経験して学んだことは三つあります。

一つ目は感謝の心と自立することです。麗澤瑞浪高校に入学し、全ての事柄が当たり前ではないということを実感しました。私は、寮生活をする前は、家で親に甘えて生きてきたため、何かをしてもらえるということが当たり前だと勘違いしていました。そのような理由から自分の中で自立したいと決意し、入学しました。実際に四年生では、私生活の中で分からないことが殆どで先輩方に多くの事を教えて頂きました。最初はついて行くので必死になり、周りを見る余裕ありませんでした。そこで、自立して生活するということが大変さを知りました。そして、与えられた環境の中でしか行動できなかった自分は、その環境がどれだけありがたかったかを思い知りました。

二つ目は、先輩になるという自覚です。一年が経った今、自分には後輩ができて引く張

って行く立場になりました。自分が今まで先輩にやって頂いたことを後輩にも繋げていくことが、自分のやるべきことです。しかし、それに甘えてしまっている自分もいます。その自分があることによって、物事を後回しにしてしまったり、寮生活での当たり前のルールを破ったりすることは、先輩としてのチームを引く張って行く行動ではありません。そのような行動をすることによって周りからの信頼を失っていくことにも気づきました。自分が部を引く張っていくためにも、やってしまった失敗を受け入れ、次に繋げることが大事だと学びました。

三つ目はチームメイトとコミュニケーションを取る事と、他責にしないことです。より良い部活を作るためにも、テニスコートだけではなく、私生活からお互いにいけない所は言い合えるような関係性を築いていくことが大切だということを学びました。私はどうしても自分の中に甘い心があり「人がやっていいから自分もやっていい。」など誤った考えをしてしまいます。人がどうかを考える前に自分と向き合って誤った行動に対して向き合

うことが大切です。寮の中での仕事でもだれかがやるといふ他人任せにするのではなく、自分も五年生という立場なので、仲間と協力していけるような存在になっていきたいと思いました。

残り二ヶ月もない間で六年生の先輩方は、退寮してしまいます。次は自分が寮の中で最上級生となります。そこで不安に感じないためにも先輩方が今まで伝えてきて下さった事を心に置き、自分が先輩を支えていき、支え合いのチームを作りたいと思います。



寮での三年間

B10寮 3年 高橋 淳悟

三年生としての寮役員が始まって早七カ月が経った。入学してから考えると二年と七カ月。この作文を書くにあたって、寮生活の出来事をたくさん思い出すことができた。

一年生のころの自分は、学校では友達と悪さをしているのが日常茶飯事だったと思う。

僕は三人兄弟の三男だから、寮では二つ上の先輩にずっと甘えていた。

二年生の時は初めての先輩が来たというところで、だいぶ気合の入った一年になっていった。

三年生になってからは、一年生と二年生の時にはなかったような心の落ち着きが生まれた。この落ち着きのおかげでだいぶ視野を広げて物事を考えられていると思う。

このような寮生活を今まで過ごしてきて、やはり体に染み付いたのが麗澤の道徳だ。麗澤の道徳は他の公立中学校以上に品格がある。一年生のころは心に響くどころか、興味すらなかった。それでも、寮の中で多くの人と関

わっていく中で、教わったことと、寮での出来事が重なったりして身に染みて感じる事ができた。

その中でも一番に大きく思ったのは、「恩返し」と「恩送り」についてで、僕は一年生のころ、信じられないくらい大きい恩を先輩からいただいた。その先輩の優しさを今後輩に受け継ぐと頑張っている。全然うまく伝えられないことばかりだが、先輩の見様見真似で先輩に接したりして、まだまだ勉強中だ。「恩返し」「恩送り」は母に教えてもらった言葉で、僕の兄もこの言葉を大切にしている。教えられた時は説明もさっぱりわからなかったが、今だからこそ胸を張って言葉の意味も知っているし、行動にも起こしていると言える。

この三年間を通して僕はこのようなことを学ぶことができた。まだまだ自分には足りないところだらけで頼りないけれど、中学男子寮を退寮した後でも成長し続けていきたいと思う。

とりあえず今は、入学当初の不安げな自分とその時の両親に、寮役員として胸を張って生活している今の自分を見せてあげたい。そ

して寮生活で関わってくれたすべての人々に感謝の気持ちを伝えたいと思う。



【女子寮】

寮生活での学びについて

B1寮 6年 高瀬 清弥佳

学びといっても、さまざまな種類の学びがあります。その中の一つである学問は、日本に生まれた人ならば誰にでも触れることができる機会があります。しかし、寮生活におけ

る学びはというと、一言で表すことができないうえ、非常に複雑な形の学びです。十代の多感な時期に、完璧な個人空間のない建物の中で、五つ歳の離れた人をも同居人とし、親と離れて暮らすのです。単純な学びであるわけがありません。

この場にいる生徒の誰もが、一度は人間関係のトラブルを間近で見えています。当事者だった人、そうではなかった人、あるいは今、渦中にいる人もいます。では私がそういった経験から何を学んだかというと、誰かに傷つけられたことは忘れられないということです。反対に、誰かを傷つけたことはなかったことにしてしまいがちなのです。身を持ってして私はそれを学びました。ずっと近くに友達がいるからこそです。言ってしまうと、寮の中では完璧に他人との関わりから逃げられる場所がないからです。日中の学校だけではわからないその人の短所がよく目につくようになります。トラブルが起きるのは正直仕方がありません。ただし、傷つけられたことは忘れられない。このことは覚えておくと良いと思います。

さて、私が学んだことを述べた時、どこが複雑なのかと思われた方がいるかもしれません。問題はここからです。何を学んだかは人によって異なるのです。これが寮生活における学びが複雑で難しい理由です。一人一人が異なる価値観を持ち、異なる立場にあり、異なる経験をします。私が人間関係のトラブルを通して学んだことは先に述べた通りですが、仮に同じ経験をした人がいても、全く同じ学びを得るわけではありません。違う軸で生きています。つまり、月日が経ってたくさんのことを学んでも、結局他人は他人であり、自分の持つ意見を全て他者に理解させることも、他者の意見を全て理解することも全く不可能なのです。ではなぜ、寮生活を始めとする共生社会が成立しているのか。それは、「思いやりのある妥協」によるものです。自分はいやりのある妥協」によるものです。自分はいやりのないけど、みんなに迷惑がかかるから破らない。みんなの自由を守るために規則は破らない。将来の自分のために、今やるべきことをする。そういう時、私たちは思いやりをもって妥協しています。妥協する力を持つた状態で入寮した子も、未だに妥協するのが

少し難しい子もいますね。麗澤瑞浪女子寮にはたくさんのお思いやりや協働ポイントがありますから、気づいたらぜひ実行してみてください。きつと役立ちます。

最後に、私がこんな作文を書いたのは、自身の学びをこの場で発表するよりも、後輩である皆さんに伝えたいことを伝えるほうが良いと思ったからです。たまたま抽象的な物事を考えることが得意な私が、自分と向き合う時間の多い寮生活を始めたからです。皆さん自分が学ぶべきことを学んで下さい。そしてこれだけは忘れないで下さい。支えて下さる人への感謝です。皆さんが忘れないようにここで感謝を述べようと思います。

本当にありがとうございます。自分が学ぶべきことを学べた私は幸せ者です。ありがとうございます。ございました。



六年間を通して

B2寮 6年 四宮 慶子

六年間にわたる長い寮生活を改めて振り返ってみると、私が最も身につけたことは、人間らしさだったのだと思います。

入学したころのことはあまり覚えていませんが、私はほぼ全くと言っていい程、一般常識が備わっていない人間でした。そのことでは、本当に当時の先輩方や同年の人達にも迷惑をかけたと思っています。ただ、大分扱

いづらかったであろう当時の私に、先輩方や同学年は、生活の仕方や礼儀、寮の規則など、そして何より一般常識を、本当に根気強く教えて下さいました。今ではその時より結構成長したので、当時の私を知る人達にはよく「人間になったね」と言われたり、感動されたりします。

中学の三年間は、そのようにして少しずつ人間性を身につけ、時々先輩に怒られたり、色々やらかしたりしながら、過ごしていました。ただ、その三年間は本当に時間の流れが遅く、とても長く感じたことを覚えています。

逆に、高校の三年間は本当に一瞬に感じました。おそらく私が選抜クラスであったことも関係していたと思います。するべきことが多くあり、中学のころとは違ってSDGsのコンテストなどに出場したりもしていたので、毎日が忙しく、そしてとても充実していました。コロナ禍だったため制限は多く、行事なども開催できなかつたり、できても制約が多かつたりしていました。しかし、その分通常通りではなくとも行事を開催できることがいかに貴重か分かっていたので、一つ一つの行

事を楽しむことができたと思います。

六年間のうち、半分ほどはコロナの影響下にありましたが、十分楽しく、さまざまなことを学ぶことができた寮生活でした。私の家は転勤が多かったため、同じ場所に留まった年数は麗澤が最長でした。これまでの友人関係は長くても三年だったので、あまり深い関係は築けていませんでした。寮生活をしていることもあり、六年間共に生活し続ければ、必然的にその人の良い面、悪い面の両方が見えてくるものです。その事実を差し引いたとしても、特に同学年や、先輩後輩は、私にとって最高の人達でした。おそらくこのメンバーでなければ、今の私は存在していなかったことと思います。本当に、ありがとうございます。

受験まで、残り僅か二、三カ月しかありません。志望校に合格するためにも、私にできる最善の努力をしていかなければならないと思っています。六年生は入試後、入試前に関わらず勿論努力するべきですし、一〜五年生もそれぞれの目標に向かって頑張り続けられることを願っています。とても長いようで、

同時に短くもあつた私の寮生活は、もうじき終わろうとしています。この積み重ねた時間や経験は、きつと私にとつて一生の糧になるだろうと思います。今まで、本当に多くの方々にお世話になりました。ありがとうございます。



寮生活をして

B2寮 2年 成田 由真

私は寮生になって良かった、と思う理由が大きく分けて三つあります。今回はそのこと

について話していきたいと思います。

一つ目は「自立心が芽生えること」です。寮で生活するにあたって必ずしなければならなくなるのが洗濯です。私は家にいる時、これを家族にやってもらっていて、洗濯は寮に来て初めてやったといっても過言ではありません。他にも、一人部屋は好きなことができる反面、何もしないと部屋が汚くなっていくばかりです。したがって、自然に「部屋を片づけよう」という意欲が湧いてきます。このようなことから私は寮に入ること||自立心が芽生えること、なのではないかなと思います。

二つ目は「格言に触られること」です。一つ目も寮生ならではの成長だと思っています。しかし寮生でなければ自立心は芽生えないというわけではありません。そこで私は通学生と寮生の違いについて考えてみました。そうして思いついたのが、この「格言」です。寮生は通学生よりも格言に触れる機会が圧倒的に多いと思います。そして、格言について考える時間が多いのも寮生だと思います。

寮生活をしていると、人間関係や将来のことなどで悩むことも多くあります。そんな時に心

の支えとなってくれているのが格言であるとは私は考えます。実際に私も悩みがあった時に格言のことを考えると「きつと大丈夫だ」という自信が湧いてきます。結果的に心が強くなっているのは分かりませんが、確実にメンタルケアにはなっているはずですよ。

ここまで聞いて「悩むくらいなら初めから寮なんて入らなければいいのでは」と思う人もいるかもしれません。ここで三つ目の理由です。それは「何より楽しい」です。普通に考えて友達、ましてや先輩後輩と一つ屋根の下で生活する、なかなかない貴重な経験です。学校が終わってご飯を食べ終わっても友達と話せるなんて楽しくないはずがありません。したがって私はどれだけ悩んでいても寮をやめたいとは思いません。この貴重な経験を思い切り楽しんで生活していきたいと思えます。以上のことが「私の思う寮生活の良い点」です。これからもたくさん悩んで、時にはケンをすることもあると思います。しかし、これを超えるほど楽しく寮生活を送っていけたらなと思っています。

第三部 瑞浪市主張大会

新しいことに挑戦すること

5年 嶋田 まりあ

「色々なことに挑戦しよう」周りの大人はよく言いますが、わかっていても何から始めたら良いか分からない、めんどくさい、自分の興味のあること以外はやりたくないなどと色々理由をつけて新しいことに挑戦したり、なにかに参加したりすることを億劫に思っている人はたくさんいると思います。そもそも最初から何でもやりたい、何にでも挑戦したいと思える人のほうが少ないと思います。

私の通っている学校は中高一貫校で高校受験というものを普通の受験生に比べて強く意識することなく高校生になりました。しかし、高校生になって色々な形で受験を意識するようになり、勉強や部活動以外の課外活動にも参加しよう、はじめは友達と一緒に学校に貼ってあった、市の主催する「高校生と語る会」という活動に参加しました。内容は18歳

成人について、という身近ですがあまり考えたことのない内容についてでした。私は主催側の決定で地域の方のサポートを受けながら司会を務め、メインテーマの話の他にも、瑞浪市の魅力や問題点について実際に地域の方々と話す時間もありました。私はバスで学校に通学していて実際に瑞浪市に住んでいるわけではありませんが、学校の授業などで街の歴史や魅力、課題について調べたり、発表したりする機会が何度もありました。そのことに関することや今、実際に市内で行われている町おこしについて、実際に地元の方と話す機会は、とても充実した体験になりました。

その数カ月後私は、インターネットで高校生でも参加することのできるボランティアについて調べていました。色々なボランティアがありましたが、ここからは遠くてなかなか参加しづらいものや部活動や学校の休みなどとの兼ね合いもあって、オンライン上で参加することのできるボランティアに参加することにしました。私はその中でも学習支援に関するボランティアに参加したいと思い、子ども食堂の主催するWEB学習支援ボランティア

イアに申し込むことになりました。勉強を教えるべく途中で学校に行くことができず周りの子に比べ学習が遅れてしまっている子供や親の仕事が忙しく周囲に勉強を教えてくれる人はいない環境にある子供がたくさんいることを知りました。社会人のボランティアの方や子ども食堂の方のサポートもありながら、勉強を教えていく中で、人に教えることの面白さやこのような現状を実際に知ることができた貴重な体験になりました。

私がこの経験を通して伝えたいことは、新しいこと、色々なことへの挑戦に億劫にならないことです。新しいことに挑戦するにはとても勇気がいると思います。しかし、うまくやれるか分からないことへの心配や、どうしたら良いかわからない事への不安から挑戦をやめてしまうことは、とてももったいない事だと思います。色々なものに積極的にいることは自分の視野を広げ、考えるきっかけを与えてくれます。自分の興味のあることはもちろん知らなかったこと、興味のなかったことに触れる機会にもなります。何かに申し込んだり、どこかに行くことだけでなく、身近に

いる話したことのない人々に自分から話しかけてみたり、気になったことを少し調べてみる、そのようなちよつとしたことから少しずつ始めて見るのがいつか大きな体験に出会うきっかけになるはずです。



第四部 修学旅行

言語の壁を壊す

5年3組 小林 祥子

私は、三泊四日の台湾修学旅行を通じていろいろな場面で日本での生活との共通点や相違点を感じた。

私は今まで一度も外国に行ったことがなく、今回の修学旅行初めての海外であった。そのため日本とは異なるところも多いことから少し不安に感じていた。元々趣味などで海外の文化に関心があり、文化、食、芸能などさまざまな分野において興味があったため、日本との距離が近いということもあり、そこまで大きな違いはないと考えて台湾へと向かった。修学旅行に行く前にも何度か事前研修を行い、台湾の文化などについて学ぶ機会があり、そこでもすでに日本と異なる点、また共通点を見つけていたが、実際に台湾に着くと、その予想を上回るなどのさまざまな情報があった。その中でも、私が日本とは少し異なっていると感じ、魅力的だと思ったのが、街ゆく人

の雰囲気だった。修学旅行中に、歩いたり、バスや新幹線で移動したりするという場面がたくさんあり、その中で声をかけられたり、逆にこちらから声をかけたりすると、とてもフレンドリーに話してくれるということが多く感じた。もちろん日本でも道がわからない時など、困った時に通りがかつた人に尋ねて助けられたことや、自分が聞かれて助けたこともある。しかし、台湾の街中を歩いていると、同じくらいの年齢の人が、持っていた食べ物や飲み物を少し分けてくれたり、私がお店で注文する時に言葉が通じなくて困っていると、近くにいた通行人の方が助けてくださるといったことがあった。

自分が外国人という立場に初めて立って、ただでさえ初めての場所で不安ばかりなのに分からないことを気軽に聞くことができないというのは、さらに不安を増させられることだと感じた。そんな時に現地の方が優しく声をかけてくれた。このことは、その時の私にとってとても嬉しく、大きな安心感を覚えた。今まで日本にいる間たくさん海外の方と交流する機会や出会うことがあり、言葉がち

やんと出てくるのか不安になり、なかなか自分から話しかけることができていなかった。今回の台湾修学旅行を機に、これからは自ら海外の方、それだけでなく困っている方など、いろいろな人に積極的に関わっていききたいと思った。



台湾で学んだこと

5年3組 熊澤 涼斗

十一月二十日から三泊四日で台湾修学旅行が行われました。私は台湾や日本のことを多

く学び、当日を迎えました。修学旅行の中で特に印象に残った四つについて話します。

一つ目は、一日目の飛行機から降りてからのことです。初めての海外である台湾に着いた私は飛行機から降りた瞬間、日本と違う気候、言語に心奪われました。街に出てみるとこのことに加えて目に入る建物に歴史を感じたり、凄まじい発展速度を感じたりすることができました。これらの日本と全く違う様子は私にこの旅行で一番の興奮を覚えさせました。

二つ目は、一日目に訪れた夜市でした。一番楽しみにしていた反面、言語や料理の違いに不安もありました。しかし、店の方の接客はとても丁寧で、料理も好みの違いはありましたが、とてもおいしかったです。

三つ目は、二日目に訪れた烏山頭ダムです。事前研修で画像を見てはいましたが、実際にこの目で見るとその壮大さに息をのみました。この大きさを今から何十年も前に造ったと思うと更にそのダムの凄さを感じました。

四つ目は、三日目の夜に訪れた九份です。そこはジブリ映画の舞台になったと言われる

ほど綺麗な場所で、灯りがついた後の夜景はこの旅行一番の景色でした。また、屋台もたくさんあり、とても充実した時間を過ごせました。

この修学旅行を通じて、私は人の温かさとながりの大切さを知りました。事前研修で学んだように、台湾は本当に親日国でした。街を歩いていると、日本語で話しかけてくれる方や、日本語で接客してくださる店の方、困っている時、僕らを日本人と知ってなのか声をかけてくれる方、本当に多くの人の優しさに触れ、日本と台湾の人のつながりの深さを感じました。今の世界、日本と台湾ほど友好な関係にあるところはなかなかありません。この修学旅行を通じて、こうした関係性がさらに増えてほしいですし、友好関係にある台湾とのつながりに感謝し、大切にしていきたいです。



私の台湾アルバム

5年1組 安藤 心菜

「ストレージが一杯です」私のスマホはよくこの通知を鳴らす。その度にアルバムを開き、何千枚ある写真やビデオの中から少しずつ選ばれ消される。飼っている猫の写真、空の写真が選ばれていく中、同じような写真が何枚もあるのに消されないものがある。それは台湾修学旅行での写真だ。どれを見てもその時の匂い、景色、感情がよみがえる。

最初に現れたのは、セントレア空港での写真だ。皆良い表情をしている。これから三泊四日という長い時間を初めて共にすることにワクワクする気持ちを抑えきれないのだろう。私は初めての海外旅行だったため、誰よりもその気持ちを抑えきれなかった。空港での荷物検査の緊張感、飛行機が離陸する瞬間の感覚、小さな窓から見える絶景。どれもが初めてだった。いつもは地上から空に飛んでいる飛行機を見ては、私は見えているかなと思いつながら、手を振ってみたりする。しかし、飛行機から下を見てみると、これっぽっちも人の姿は見えない。いつも私がしていたことは無駄だったのだ。そんなことを考えているうちにあつという間に台湾に着いた。

画面をスクロールしてみる。次に出てきたのは十鼓文化村の写真だ。ここではグループ行動がメインだったため、私を含め自称美女と名乗る六人がよく登場している。この台湾修学旅行のためにお揃いで買ったバッグと青色のチェックのスカートが、十鼓文化村のレトロな景色を背景によく映えている。「せーの」という掛け声と共に六人でジャンプをしたこ

の写真は、一番のお気に入りだ。

もう一度スクロールしてみる。次に出てきたのは九份の写真だ。九份は至るところに屋台がある。私はそこでタピオカを飲んだ。台湾へ行ったら必ず飲みたいと思っていたものだ。台湾のタピオカは日本のものより、もちもちしていて弾力がある。日本に持ち帰りたいほど好きな食感だった。タピオカを飲みながら街を歩いていると、いろいろな匂いがしてくる。思わず鼻を押さえたくなる匂いだ。台湾の食べ物には香辛料が強く、苦手な食べ物が多かった。現地の人は美味しいと言いなから食べるものも、私達にとっては鼻をつままないと思えないものなど、食文化の違いを感じた。普段当たり前のように食べている日本食の味が恋しくなった。

この写真たちは一生消さない。台湾という場所で、友達と過ごしたあの時間は、私にとって大切な宝物となった。



第五部 皇居勤勞奉仕

4年3組 鈴村 のえみ

私は皇居勤勞奉仕に参加するまで皇室や天
皇陛下についてほとんど知りませんでした。
しかし、事前研修で天皇陛下についてのビデ
オを見たり、皇居奉仕中に宮内庁の職員の方
の説明を聞いたりして、皇室の歴史や行事に
ついて知るにつれ、皇室についての興味を持
つようになりました。今まで知らなかった歴
史を知ることができ、皇室が続いてきた理由
や天皇陛下の国民一人一人のことを常に考え
て接してくださっていることを知ることがで
きたような気がします。

皇居勤勞奉仕中に一番心に残ったことは天
皇陛下からご会釈を賜ったことです。数メー
トルの距離で天皇陛下にお目にかかれたこと
は私の人生の中でも貴重な経験になりま
した。天皇陛下はとてもあたたかい雰囲気
で常に国の象徴としての役目を背負われてきた
ということが感じ取れたような気がしました。
奉仕団全員が同じように感じていたような一
体感があったと思います。広い皇居の中で作
業できたのはほんの短時間だったのでお役に
立てたか分かりませんが、参加できたことは
私にとって大きな意味がありました。

4年3組 藤田 千鶴

今回の皇居勤勞奉仕を通して、学んだこと
が多くありました。そして私は奉仕作業や皇
居を案内していただいて日本って素敵だと
思いました。一日目の奉仕作業では、宮殿地
区のほうの掃除をさせていただきました。そ
の日は作業より、宮殿やその周りの案内をし
ていただくことのほうが多くとてもワクワク
しながら見学をさせていただきました。テレ
ビの画面上でしか見たことのない景色を実際

に自分の目で見る事ができて感動しました。また、宮殿地区を案内してくださった方を含め、皇居内で働いている方々がとても楽しそうに、また自身の仕事に誇りを持って働いている姿を多く見かけ、私自身、感銘を受けました。

二日目の奉仕作業は朝、目が覚めたときから早く皇居に行きたいと思っていました。なぜなら天皇陛下にご会釈を賜ることが前日から分かっていたからです。午前中は富士見櫓の近くで落ち葉集めをしていました。作業中に一日目に教えていただいた馬車や騎馬隊を

目の前で見る事ができました。私はうれしすぎて作業を中断し最後まで見ていました。そのあと天皇陛下にご会釈を賜ることができました。天皇陛下が部屋に入ってから初めてから空気が変わったように感じました。また、陛下の優しい眼差しや美しい立ち居振る舞いに見とれてしまいました。天皇陛下のご会釈を賜った後は、一般の方もいる中での作業だったのですが、その際に海外からの旅行者の方に「ボランティアで清掃作業を行われているのは素晴らしいことですね」と言っていた

だいて、日本人ならではのかなと感じました。

三日目の奉仕作業は残念ながら行うことはできませんでした。しかし私は奉仕作業を通して日本人として生きていくことの誇りと天皇陛下が日本の象徴として国民のことを思ってくださっていることが分かりました。今回の皇居勤労奉仕でも実りある時間を過ごさせていただきました。ありがとうございます。私はこれから日本人として生きていくことに誇りを持って生活していきます。

6年1組 林 菜那

今回、皇居奉仕に参加させていただいて、とても貴重な経験がたくさんできました。私の兄が皇居奉仕に参加したことがあり、話を聞く中で、私も参加してみたいと思うようになったことから参加することに決めました。コロナ禍で何年も行くことができず、今年度も行くことができないと思っていたので、冬に行くことが決まったときはとてもうれしく、先生や宮内庁の方に感謝したいと思います。実際に皇居奉仕に参加させていただいて、

ふだん中に行くことのない皇居に初めて入ったとき、自然の豊かさと落ち着いた雰囲気、圧倒されました。私たちが皇居内を掃除しながら、ずっと美しい状態が保たれていました。また、さまざまな建物や行事について説明してくださって、すごく歴史があるものばかりだと分かりました。三日目には天皇陛下のご会釈を賜ったり、馬車を見ることができました。天皇陛下にお会いしたときは、不思議なオーラのようなものを感じましたが、一つ一つの言葉がとても優しく寄り添ってくさるようにお話ししてくださってとてもうれしかったです。

短い間でしたが、皇居の清掃をさせていただいた中で、一人ではなく、全員で協力し積極的に行動することの大切さを学びました。先輩、後輩は関係なく、全員がお互いに助け合って一生懸命がんばっていてとてもよかったです。四日間の中で学ぶことはたくさんあったし、貴重な経験をする事ができました。高校最後により思い出と経験ができたので、大学生、社会人になっても、今回のことを忘れずがんばりたいです。



第八部 六年生 麗澤瑞浪に学んで

無償の愛に気づく

6年1組 和田 隼知

私は、中学一年生から高校三年生まで麗澤瑞浪で学んできました。当時は道徳なんてただの綺麗事だと思っていたり、授業中も私語ばかりしては先生方から注意されることを繰り返していました。そんな毎日でしたが、ある時道徳の授業の中で「陰徳」という言葉を知りました。他人が見ていないところで、人の為に良いことをするということが、中学生だった私は当時、まだ誰かの為に進んで良いことをするのは、人がいるからこそ意味があると思っていました。誰も見ていないところで行うことは自己満足だと感じていたのです。しかしこの時にふと、今まで揃っていたトイレのスリッパは誰のおかけだろうと気になりました。見ていないところで誰かの為にスリッパを揃えるのも、立派な陰徳であったのだと、この時初めて気づきました。同時に、今まで見返りを期待し行動していた

自分がいかに未熟かを知ったのです。無償の愛ほど人の心を動かさし、かつ、気づいた時にその人を大きく成長させるものはないのです。しかしこの無償の愛は、普段から周りへの感謝や思いやりの心を育んでいないと気づけるものではなく、自分から遠ざけていた麗澤の道徳こそが最大の近道でした。高校で始めたサッカーも最初から上手くはいきませんでした。しかし先輩や先生、後輩だけでなく、親からの無償の愛を一身に受け、それに気づき感謝し続けたからこそ、決して途中で腐ることなく一生懸命打ち込めたのだと確信しています。

麗澤で学び得ることの出来たものはきっと一生の宝物となるでしょう。次は自分が受けた恩恵や愛を貰った人に、それだけではなくこの先出会う人達全員に分け与えることこそが、大きな意味でこの気づきを与えてくれた麗澤への恩返しであるのです。十代でこんな学びを得られたことに改めて感謝をし、これから先、続けていきたいと思いました。



学んだこと・経験してきたこと

6年2組 安藤 彩希

見知らぬ場所 見知らぬ人たちがいる中で私は麗澤瑞浪に入学し、六年間そこでさまざまなことを学んだ。

私は太鼓部に入った。思っていたよりも練習量が多く、先輩も厳しかった。当時は土曜

日も学校があり、演奏会が近づくくと、日曜日にも練習で、休日が少なく、家でゴロゴロすることが好きな私にとっては苦痛だった。また先輩に毎日注意されて逃げてしまいたいと思っただけでもあった。しかし、練習量が多いのは、太鼓を上手く打ち、演奏を成功させるためであり、先輩が厳しく注意してくださるのは、気を引き締めて部活を行うためであり、全部自分のためであった。それに気づいたのは、私に先輩が出来たところだった。先輩から敬語、礼儀、仕事を教わり、それを先輩へと繋げる伝統の大切さを学ぶことができた。

また、私は中学、高校の生徒会の役員になった。中学生徒会では、コロナ禍真っ只中であつたため、生徒会のみんなに会えない中、メールでスローガンの意見を出し合うところから始まった。こんな環境で生徒会活動ができるのか、本当に私が生徒会に参加して良いのかと思つたこともあつた。しかし支えてくれる仲間や先生がいて、生徒会活動にやりがいを感じた。一人ではできないことでも、仲間と共に協力すればできることを学んだ。

高校生徒会では、私は美化委員長として委

員会活動を始めた。副委員長だつたころとは違い、たくさん仕事があつた。休み時間を削って、表を作成していたこともあつた。以前の私だつたら面倒なことはやりたがらなかつたが、委員長になってからは、美化チェックを導入し、表を作成し、日程を決め、結果を集計することが楽しくなつた。人前に立つて話すことは嫌いだが、委員会でも司会進行をし、学校集会で舞台上に立つて話すことは良い経験になつた。生徒会に入つたことで自分自身を変えることができ、より自信を持つようになった。

これらのことは、私にとつても大切な時間で、この学校に入学して良かったと思つている。麗澤で学んだこと、培つた経験を将来に活かしていきたい。六年間ありがとう。

思いやりで多様性を認める

6年3組 小澤 天瑠

私は麗澤瑞浪で多様な価値観に触れ、思いやりを持って他を認め、協働する精神を学ん

だ。全校生徒二十余名の小規模な小学校を卒業し、麗澤瑞浪に入学した私にとって、麗澤瑞浪は多様な価値観にあふれた色彩豊かな学校に感じられた。実際に、全国津々浦々から生徒が集い、共に学ぶ環境では、言葉遣い、物の捉え方一つでも個性が現れる。初めは、

「こんなこと平気でやるのか」「こんなことまでサラッと覚えてしまうのか」などと、自己と異なる価値観の言動に、驚きと、多少の非難の目を向けていたように思う。しかし、学校で共に生活する中で、あるいは、グループワークや修学旅行などの集団行動の中で、多様な価値観を受け入れる必要と、受け入れた後に得られる自らの成長の可能性を知った。さらに道徳の授業で思いやりの精神を学ぶ中で、他者を思いやることこそが、他者の価値観を認めるための第一歩であることに気がついた。今では、たとえどんなに自分の価値観とかけ離れた人物、行動に出会っても、まずは他者の考えや気持ちを読み取り、自分との違いを理解したうえで、他者を認め円満な関係を築いていけるだろう。

現在、社会はかつてより多様に溢れている。

。だからこそ必要となるのは、自分にとって異なる(知らなかっただけ)価値観に遭遇したときに、かつての私のようにそれを訝るのではなく、それを認め、協働していくことなのだろう。麗澤瑞浪では、そんな大切な精神を学んだ。

私はいま、六年間を過ごした麗澤瑞浪から離れ、まったく新たな世界へ飛び込もうとしている。そこではこれまで以上に多様な価値観が存在するだろう。麗澤瑞浪で学んだことが、新しい場所で生きていくための強力な糧となることを信じて、未来へ歩んでいく。

麗澤での学び

6年3組 林 知歩

僕が麗澤瑞浪で学んだことは二つある。

一つ目は道徳的な行いをする時の気持ちの大切さだ。

僕が通っていた中学校では、困っている人がいたら助ける、トイレのスリッパを揃える、のような普通の道徳を授業で受けてきた。ま

た僕もそれが道徳だと思っていた。

しかし麗澤瑞浪で学んだ道徳は、人助けのような行動はあたりまえとし、その行動をするまでの気持ちも大切だということを学んだ。たしかに他人を助ける際に自分の気持ちが良くない、見返りを求めるような気持ちがあると、内面的には道徳的とはいえない、つまり、ただ単に親切で道徳をするということだけでは不十分なのだ。このような教育を受けているからこそ、トイレのスリッパも他で見ないほど整っていたり、人間関係でも友達や先生との間に変なわだかまりがなく、皆仲良く生活しているのだと思う。

二つ目は、人とつながることの大切さだ。

麗澤にいと結構な頻度で卒業生がいるのを見かける。また、社会人になった先輩から貴重な話を聞いたり、受験期での経験談を書いた物が残っていたりと、良い人間関係があったからこそある。また、このようにこの物を見ていくからこそ、次の卒業生が新しい物を残し、この伝統が受け継がれているのだとも感じた。私はこれらのつながりで勇気づけられ、さまざまなことに挑戦すること

ができた。

麗澤では他の高校では絶対にできないような体験や学びがたくさんできたと思う。加えて、道徳を通して、社会に出てから必要な気持ちの持ち方や行動などの模範も学ぶことができたと思う。これらの学んだことを活かして麗澤の名に恥じないように生活し、伝統をつないでいきたいと思う。



第五部 卒業式答辞

6年2組 浦沢さくら

日差しが日一日と暖かさを増し、園内の木々が彩り始めようという今日に私たちは卒業の日を迎えました。この良き日に、私たち卒業生のために盛大な卒業証書授与式を挙行していただき、心より感謝申し上げます。理事長先生をはじめ、校長先生、来賓の方々、在校生からの温かい励ましのお言葉は私たちの背中を押してくれるようで、胸が熱くなりました。本当にありがとうございます。

憧れの制服に身を包み、麗澤瑞浪に入学してからはや三年、または六年が経ちました。真新しく少し大きく感じられる制服は、今ではすっかり肌なじむようになりました。入寮して間もない頃、一人になると涙が込み上げ、寂しさに打ちのめされた時期が懐かしく感じられます。しかし、同じような気持ち共有した同級生達や、同じことを経験してきた先輩方がいたことで、息苦しさから解放され、乗り越えることができました。入学した頃から明るく元気に話しかけてくれた同級

生達と、麗澤瑞浪でたくさん経験を積み重ねました。

中高一貫校である本校には、日本全国から来た寮生と通学生、一貫生と高入生というように、全く違う考えを持っている人々が集まります。しかしそんな麗澤瑞浪だからこそ、たくさん仲間たちに出会うことができました。

六年間という長く濃密な時間の中では、友とも何度か衝突し悩みましたが、それは仲間たちも同じでした。ある時悩みを持った友人を支えようと、自分にできることを探し、声をかけ続けました。その時の私は、私自身のことで精いっぱいになっていることに気づかず、心身を疲弊させてしまうこともありました。相手の立場や気持ちを理解し、心を傾けることはもちろん、たまには自分自身とも向き合ってみることが大切であるということが後になってやっと理解できました。このことが麗澤瑞浪で得た大切な学びの一つだったのだと思えます。

自分たちのことだけを考え、配慮を欠いた言動で、先生方にご迷惑をおかけしたことも

ありました。幼かったからのこととご容赦ください。麗澤瑞浪ならではの学びと経験は、道徳科学に通ずるものばかりです。人と人の繋がりである伝統を大事にする気持ちを持つことが、何より大切な道徳実行への第一歩なのだと思います。広池先生の格言に「他を救うにあらず己を助くるにあることを悟る」というものがあります。入学当初の私は、己の不完全さを自覚し、犠牲を払わせていただくという考え方を理解できず、道徳の実行とは自分が苦しむものだと思っていました。しかし、道徳の授業を重ねるうちにこの格言の意味を理解し、寮生である私は寮生活を通して身をもって学びました。完全無欠な人間は、今までもこれからもいないでしょう。誰もが失敗から学びを得て、その教えが今日まで受け継がれてきました。私たちは先人たちが感じた己の不完全さから得た学びを享受しているのだと思います。

麗澤瑞浪で学んできた私たちにとって、家や、国や、精神伝統に心を傾け、感謝するという時間は、何より尊いものだったと感じています。先人に思いを馳せると、今の日本や自

分があることは当たり前ではないことに気づき、感謝する気持ちを知ることができました。今では、隣にいる人を想い、その人を取り巻く環境にも心を配ろうとする行いは、巡り巡って必ず自分に還ってくるのだと思えます。

在校生のみなさん。今まで私たちを支えてくれて、ありがとうございます。コロナ禍が明け、四年ぶりとなった本年度の学校生活を忘れず、麗澤瑞浪の伝統を受け継いでいてほしいと思います。同級生や先生方、ご家族へはもちろん、皆さんに付いてきてくれる後輩への感謝の気持ちを忘れずに、毎日を大切に過ごしてください。

また、先生方。私たちに時に厳しく時に優しく指導していただき、ありがとうございます。私たちに親身になって向き合ってくれた先生方のおかげで、こうして卒業することができそうです。本当にありがとうございます。

そして、いつも心の支えになってくれた両親と家族。麗澤瑞浪中学高等学校に入学させてくれてありがとうございます。私は麗澤瑞浪でたくさんの出会いと経験を、全てが

私の力になりました。素晴らしい友人と師に出会えた私は幸せ者です。ここで得た力を活かして頑張っていきます。これからもよろしくお願いします。

最後に、同級生のみんな今まで本当にありがとうございました。恐らく、麗澤生のなによりの強みは長くて深い時間を共にした友人の存在です。世の中が大きく変わった時代を麗澤瑞浪で過ごした私たちは、これからの未来でどんなことも乗り越えられるはずです。共に過ごしたなによらない日常をたまに思い返して、また笑顔で会いましょう。

みなさんの励ましと応援の言葉に背中を押され、私たちはそれぞれの道に進んでいきます。麗澤瑞浪の卒業生であることに誇りを持ち、学びと感謝の気持ちを忘れることなく、未来へ歩んで参ります。

最後になりましたが、理事長先生をはじめ、校長先生、教職員の皆様、そして在校生のご健康とご活躍、そして愛する母校の益々の発展をお祈りすると共に、心からの感謝の気持ちを込めて答辞とさせていただきます。

